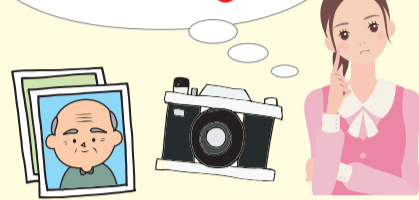


なにからはじめる？お葬式の準備

お葬式は突然やってくるもの。事前に準備をしておいた方がいいと分かっているけど、なかなか進まないというのが実情のようです。そこで、まずはお葬式までの流れや、取りかかりやすい遺影写真選びについてご紹介します。



生前に準備しよう 遺影写真 Q&A



Q 亡くなってからでは遅い？

A 亡くなってからでは、お葬式で決めなければいけないことがたくさんあり、残された家族には遺影写真をゆつくりと選ぶ時間はありません。また、遺影写真は葬儀の間だけでなく、終わってからもずっと家族のそばに飾られる写真です。大切な遺影写真は生前にゆつくり選びましょう。

Q 選ぶポイントは？

A ピンボケの写真、画像が鮮明ではない写真、集合写真で本人が小さく写っている写真などは避けたい方がよいでしょう。

Q 普段着で笑っている写真を遺影にしてもいいの？

A 以前は喪服や正装姿で、正面を真顔で向いているタイプの遺影写真が主流でした。最近はかしまった格好でなくても普段の服装で、少し横を向いたり、笑顔で写っている写真など、「自分らしさ」を選ぶ基準にする人も増えてきています。

Q 遺影用の写真をプロにお願いするにはどこで作れますか？

A 写真館に依頼したり、最近では葬儀社で行う遺影作成会もあるので気軽に利用してみてください。

Q 遺影写真は自分で持っておけばいい？

A 自分しか遺影写真の保管場所を知らない場合、亡くなったときに家族は遺影写真に気付かないかもしれません。そこで、自分には使ってほしい遺影写真があり、どこに持っているかまでを家族に伝えておくことが大切です。

★お葬式までの一般的な流れ

- ① 事前相談で、要望に合った葬儀社を選び、**万が一の際は電話をかけるだけの状態**まで準備しておく
 - ② 打ち合わせを済ませた葬儀社へ電話をかけて迎えに来てもらい、**遺体を安置の場所へ搬送**(自宅で亡くなった場合は、そのまま自宅に安置しても構いません)
 - ③ 死亡診断書と認印を葬儀社の担当者に預け、**役所関係の手続き**を
 - ④ 事前相談の段階で決めておいた見積もりをもとに、**最終打ち合わせ**に入る
 - ⑤ 斎場・火葬場の予約が取れ、葬儀の日程が決まったら、あらかじめ決めておいた連絡の範囲の人に**日程を伝える**
 - ⑥ **遺影の用意や、式の進行**を打ち合わせする
 - ⑦ **納棺の儀式**を行う
 - ⑧ 棺を通夜の会場に移動する
 - ⑨ **通夜・告別式**を終え、火葬場へ
 - ⑩ **火葬場で茶毘に伏した**後、場合によっては初七日の法要を済ませる
- ※地域によって、告別式の前に火葬するところもあります。

ただし、これは事前にはっきりと準備をしていたケース。もしもしていなかった場合、葬儀社選定から行なわなければならない、悲しみなどで不安定な精神状態の中、たくさんのことを一から決めなければいけません。

★お葬式で抑えておきたい3つのこと

- 1 費用のことについて知識を得ましょう
- 2 見積もりを複数社から取り、相性のよい葬儀社を選びましょう
- 3 規模、形式、場所、内容の4つの要望を明確にしておきましょう

まとめ

毎年一回は遺影写真を撮影するという人も少しずつ増えてきています。自分の誕生日や正月を迎えるときなど、撮り直すタイミングを決めているそうです。今の自分を写真に残すことが、安心につながり、これから元気に生きようという前向きな気持ちになるのではないのでしょうか。

お葬式講座

お葬式の見積書、ここがポイント

「見積りよりも実際の請求額が高くなっていて後悔した」という話をよく聞きます。見積りを作るときに押さえておきたいポイントについて、くまもと県民葬祭で教えていただきました。



美影写真撮影会

ビューティーコンシェルジュ・ハツ波綾羽氏の「綺麗な写真を撮るためのメイク」&アートディレクター・牧尚久氏の「綺麗な写真にするデジタル技術」で美しい遺影写真「美影」を作りませんか？

5月25日(土) 6月29日(土) 7月27日(土)

10階会議室8 9階会議室3 9階会議室3

時間：午前9時30分～
定員：各10名
参加費：21,000円(四つ切サイズ写真一枚と額入の卓上写真一枚をお渡しします)
場所：くまもと県民交流館バレーア

ご予約は下記までお電話どうぞ

トラブルになりやすい見積とは…?

小計が空欄だったり、小計はあっても合計金額がない見積は注意です。葬儀社がわざと空欄にして、消費者に合計金額が分からぬようにしていることもあります。まずは総額が明記してあるかを見ましょう。

①商品の現物を見せよう

見積を作るときは、棺や骨董などは一番安くてもよいと思っていれば、実際の葬儀で現物を見ると、「質素だからランクが上のもの」と見積りより金額が大幅に高くなることもよくあります。見積りにある金額の商品はどの程度のものかを、実際に現物を見て確認しましょう。

②参列者数を決めて変動費も計算する

参列者の人数を予想するのは難しいですが、例えば参列者が20人なら変動費はいくらになり、1人増えることに返礼品・料理はそれぞれいくらずつ増えるというように、人数によってどれだけ金額が増えるのかを把握しましょう。

③これ以上追加になる項目がないかを確認

亡くなった時間が深夜のときは深夜料金が追加されたり、場合によっては見積りに

④葬儀社の担当者の対応を見る

見積を作るときに、担当者が自分の希望や意見をきちんと聞いてくれるかを見てください。希望を伝えても聞き入れず、葬儀社の都合で内容を進めていくようではいけません。見積りを作る担当者の方の姿勢から、その葬儀社がどんな会社なのかも見えてくるものです。

⑤1人よりも複数で説明を聞く

見積りは人数や希望の内容を葬儀社に伝えると、その場で作成できます。葬儀社で見積りを作るときは、1人よりも複数で行った方が葬儀社の説明をしっかりと聞くこともでき、分からない点を質問したり、考える余裕ができます。

⑥見積りにも有効期限がある

見積りには有効期限があり、期限は葬儀社によって3カ月～1年と差があります。一度もらって、安心ではなく実際に

⑦詳細項目がない

見積の項目欄に「基本セット」や「一式」とだけあり、何が含まれているか分からない見積りは、詳細まで確認しましょう。基本セットや一式といっても、内容は葬儀社によって異なります。消費者は「一式」すべて「一式」と思いますが、見積りによっては一式の範囲を狭くして安いように見せ、実際の葬儀では追加項目を増やし、最終的に高額になる葬儀社もあるので気を付けましょう。

⑧返礼品、料理など変動費が入っていない

参列者の人数によって必要な数が大きく変動する、返礼品、料理、飲み物などを変動項目とします。この変動費が見積りになければ注意しましょう。総額に変動費が含ま

⑨見積りにも有効期限がある

見積りには有効期限があり、期限は葬儀社によって3カ月～1年と差があります。一度もらって、安心ではなく実際に

⑩最後に

見積り・相談はどの葬儀社も無料で行っています。相談したからといって、必ずその葬儀社でお葬式をしななければいけないわけはありません。複数の葬儀社から見積りをとって検討しましょう。

また、気を付けてほしいのは「見積りは目安でしかない」ということです。よく、見積りをもとに満足している人もいます。見積りだけで安心ではなく、複数社検討してより希望に合った葬儀社を探しましょう。

とはいっても、葬儀社にはなかなか行きにくい人は、葬儀社のホームページ上にある見積りシミュレーションから始めてみるのもよいでしょう。

今回は「くま経プレス7月号」掲載 (6月26日発行)

次回テーマ: あなたは大丈夫?! 葬儀社のいいなりになりやすいのはこんなタイプ

このコーナーではみなさんからの葬儀に関する質問・ご意見をお待ちしています。また、取り上げてほしいテーマがあればお葉書またはメールにてお寄せ下さい。

〒860-8552 (住所記入不要) 「くま経プレス お葬式講座」係まで
press@kumamoto-keizai.co.jp